

令和8年度 第1回 総合教育会議

「教育ビジョン 2035」に関する意見交換 ～学びの根っこを育てる環境づくり～

区長の課題認識

- ・ 生涯にわたり、自分らしく生きる力を培う学びの意欲・機運をいかに醸成するか
- ・ 日常生活の中で育つ「型」(挨拶、発言・発表する習慣、自己管理能力、体験の豊かさ)が大切なのではないか
- ・ 生成 AI をはじめとした科学技術が飛躍的に発展する時代において、自分と向き合い、他者と創る力をいかに育むか

課題認識に関連する報告事項

テーマ① 施策 1-4 「豊かな心と健やかな体の育成」における学びの土台づくり

テーマ② 施策 2-4 「学校・家庭・地域の連携・協働」における体験機会の創出と共創

テーマ① 施策 1-4「豊かな心と健やかな体の育成」

教育ビジョン 2035 p.63 より抜粋

ポイント

- 学びを支える基盤となる心身の健康の保持・増進
- 道徳教育や特別活動を通じた豊かな人間性と社会性の育成
- 体験・交流活動による実社会とのつながりの強化
- 学校・家庭・地域が連携した、運動習慣と健康意識の向上

【区長課題認識と施策の関係性】

- 授業以前の「機運」の重要性
- 挨拶ができる、人前で発表できる、自分の意見を持てる →日常生活の中で育つ「型」が学びの土台
- 体験の重要性:遊びの減少、核家族化により「本物にふれる」経験が不足

現状(R7 年度)と主な指標

	項 目	基準値
		R7
1	体育の授業を楽しいと回答する児童・生徒の割合	73.5%
2	自分にはよいところがあると思う児童・生徒の割合	85%
3	朝食を食べる児童・生徒の割合	91.8%

施策に連なる事業の進捗や方向性(R8～R10)

◆体験・交流活動の充実 ～ユネスコスクールの推進～

【事業概要】 ユネスコスクールの取組を通じて、地域の人や自然、社会課題と関わる体験・交流の機会を充実させ、児童・生徒の豊かな人間性や社会性、主体的に学ぶ力を育成する。

【現状の特徴的な取組と成果】

■区内 6 校(小 4・中 2)が加盟。各地域の特性を活かした先導的实践を展開中。

●蓮根第二小

- ・芝生校庭と固有の資産である「蓮(ハス)」の栽培を地域ボランティアと維持。
- ・6 年次に環境意識を土台として、学びを「地域の防災・減災」へ発展。

●緑小

- ・学区内にある 12.4ha の広大な雑木林・竹林を活用(タケノコ掘り、しいたけ栽培)。
- ・韓国との環境オンライン交流、給食献立と連動した「和食文化(無形文化遺産)」授業。

●板橋第二小

- ・自然が少ない環境を克服するため、校庭にビオトープ 2 箇所を児童自ら創出。
- ・委員会が育てた蝶の幼虫を 3 年生の理科教材へ。全校児童が合間で周辺清掃。

●板橋第七小

- ・4 年:緑のカーテン活動を韓国の交流校へ紹介し「種」を贈る国際交流。
- ・6 年:ユネスコスクールの取組を各学年に合わせた“パンフレット”に仕立て、全校配布。

●西台中

- ・7 年(ドリームマップ作成)⇒8 年(職場体験・持続可能な都市経営の実現)⇒9 年(修学旅行での SDGs 検証)の系統性。
- ・環境科学部が野菜 33kg を収穫し自校給食へ納品(地産地消)。給食委員によるだし殻の「エコふりかけ」化。

●高島第一中

- ・新河岸川氾濫を想定した「毎月の垂直避難訓練(4 階・屋上)」 「突然起こる避難訓練(シェイクアウト訓練)」を実施。
- ・「広島・長崎平和の旅」の成果を全校共有。
- ・SDGsをテーマとした授業の実施(美術・理科など)。

【今後の方向性】

現在加盟している6校(板橋第二小学校、板橋第七小学校、緑小学校、蓮根第二小学校、高島第一中学校、西台中学校)や、申請・候補校を中心に、区内でのネットワークを広げていく。

テーマ② 施策 2-4「学校・家庭・地域の連携・協働」

教育ビジョン 2035 p.86 より抜粋

ポイント

- 子どもの健全な成長には地域との関わりが重要
- 学校、家庭、企業、NPOなどの連携した子どもの育成
- 多様な大人との交流を通じた子どもの成長支援
- 家庭教育の基盤強化と支援体制の充実

【区長課題認識と施策の関係性】

- 一緒に活動するところから、各自の強みを持ち寄り新しい価値を創る「共創」へ
- 「教える」から「引き出す」
- 子どもの「やってみたい」を支える

現状(R7 年度)の主な指標

	項 目	基準値
		R7
1	板橋区コミュニティ・スクール（i0S）の仕組みを活用し、地域と一体となって子どもたちをはぐくんでいる学校の割合	58%
2	あいキッズ利用者満足度調査結果「成長できた」「どちらかといえば成長できた」の割合	64.3%
3	家庭での子どもに対する生活習慣などの教育への支援がされていると思う保護者の割合	72%
4	地域の活動に参加したいと思う児童・生徒の割合	76%

施策に連なる事業の進捗や方向性(R8～R10)

◆子どもの主体性を育む「共創」の実践 ～上板橋第四小学校 あいキッズ～

【事業概要】 地域と連携した多彩なプログラムと子ども主体の活動により、高学年になっても通い続けたい居場所を実現。

【現状の特徴的な取組と成果】

■高学年の継続利用を実現(数値で見る成果)

- ・上四小あいキッズ利用率:41.9%(区内全学年平均 31.8%を大きく上回る)
- ・利用者の約 3 分の 1 が 4～6 年生(一般に高学年は利用が減少する中、継続利用を実現)
- ・1 日当たり 140～160 人が利用

■地域連携による多彩なプログラム～地域を巻き込む力～

- ・地域のスポーツチーム(フットサル、ドッジボール)と体を動かす
- ・地域の習字教室講師による書道プログラム
- ・プロのイラストレーターによる創作活動
- ・絵本の読み聞かせ団体の協力 → 地域の方々が「自分の得意」を持ち寄り、子どもたちに多様な体験を提供

■子ども主体の「こどもキカク」

- ・子どもたちが「やってみたい」ことを企画書にまとめる
- ・ポスター制作、周知、実施まで子ども自身が主導
- ・【成果】企画を実現した経験が自信となり、学校での発表ができるようになった児童も

【今後の方向性】

あいキッズが原則として学校敷地内にあることを活かし、児童や保護者の多様なニーズに応えるとともに、地域との共創により体験・交流活動を一層充実させ、こどもたちの、つながり、学び、成長を支える環境づくりを進めていく。